

## 【栄区】令和4年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和4年2月4日（金） 午前11時00分～午後12時00分
場 所	栄区役所新館4階8・9号会議室
出席者	<p>【座長】 輿石且子議員</p> <p>【議員：2名】 大桑正貴議員、長谷川えつこ議員</p> <p>【栄区：30名】 富士田学区長、藤澤智明副区長、 西野均福祉保健センター長、 井上弘毅福祉保健センター担当部長、 櫻井暁人土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>(1) 令和4年度個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>(2) 会議報告書作成について</p>
発言の旨	<p>(説明省略)</p> <p>長谷川議員：みんなが主役のまちづくりについて、申請団体に対し補助を交付する事業とあるが、この申請団体にはどういった団体を想定していて、どういう周知を行う予定か。</p> <p>永松区政推進課長：この事業は、既にあるみんなが主役のまちづくり協働推進事業補助金を区づくりで実施するもので、地域の様々な活動を支援することを目的としている。4年度は、新規の申請に対して計上している。地域の皆様が集まって活動する団体に補助する。周知方法については、広報よこはま等をはじめ様々な形で行っていききたい。</p> <p>長谷川議員：こういった補助があることにより、新しく何か活動しようとして發起していく可能性もあると思うので、積極的に周知を行って、より魅力あるまちづくりを行っていけるような団体が増えたらと思う。</p> <p>ピアZZの連携はどうなっているか。</p> <p>永松区政推進課長：昨年5月にピアZZの栄区エリアを開設ということで協定を結んでいるが、ほかのSNSも含め、発信を支えていくような事業を区民のつながりづくり支援事業で実施し、各団体がどのような形で自分たちの活動を発信していくか把握しながら、皆様に寄り添って情報発信が行いやすいようにしていきたい。</p> <p>長谷川議員：ピアZZをうまく使って、もっと登録される方が増えていけ</p>

ば活性化につながっていくと思う。

郊外住宅地の住環境保全と持続可能なまちづくりの推進について、空家未然防止相談会の開催とあるが、空き家の未然防止ではどういったことを予定しているのか。金融機関と一緒に取り組むのか、相続関係なのか。あとは、民間事業者との連携ということだが、空き家を活用する想定なのか流通に回すのか、どういうことを想定しているのか。

永松区政推進課長：空き家の未然防止のため、発生の要因となる相続問題の解決を適切な時期に行い、不動産流通を促していくことをメインに相談会を実施したいと考えている。その中で、アドバイス等をするに当たって民間企業等とも相談しながら進めていこうと考えている。ちなみに、建築局とタッグを組んで、今年度は試行的にやる旨のご案内を既に1月の区連会でもご説明させていただいた。今回については、それを区で実施していきたいということで予算を計上している。

長谷川議員：相続で空き家を放っておくとどんどん権利者が増えていき、その後に空き家の権利関係を整理するのは大変なことだと思うので、こういう相談会をやる際には、専門家の方も呼んでいただきたい。また、空き家になる前に、リバースモーゲージやリースバックなどいろいろな金融の仕組みがあるので、そういったものも紹介できるような会にしてほしい。

新規の感染症予防事業について、福祉施設や保育施設を対象とした感染症予防に関する研修ということだが、どの程度の規模を想定しているのか。

角田福祉保健課長：今回の研修については、各施設から、集団発生するような感染症の関連で、早めに現場でその予兆を察知して対応できるように、保健所にも連絡を頂いて感染の広がりを防ぐようにという視点で検討しており、広く区民向けというよりは、現場の職員を対象にしたものを手厚くやりたいと考えている。

長谷川議員：万が一感染した場合の、対処方法についても伝えてほしい。

I C T利活用推進事業について、今後、区役所もI C Tの活用が進んでいくと思われるが、I C Tに不慣れな方が来庁された際の支援が必要になると考える。この事業は、配置等を変えるということか。それとも、職員や、専門の方を増やしていくということ

か。

伏見総務課長：今年度実施するが、本館1階での待合スペースで来庁者がWi-Fiを使えるように環境整備をする。もう一点は、職員が外部とのやりとりで使用する通信環境を整えるという内容になる。使い方の支援という点では、高齢の方々を対象に研修を行うという事業もあるが、この予算についてはそういったWi-Fi環境の整備に引き続き取り組んでいくということを想定している。

大桑議員：ICT利活用推進事業について、ぜひ市民の方と職員が使いやすい環境となるよう、市長の方針にも沿って進めてほしい。1階の待ち合いフロアについて、大分改善していると思う。受付の位置が変わっただけでも大分雰囲気が変わったと思うので、ぜひWi-Fiも含めてうまく区民の方の利便性向上につなげてほしい。

伏見総務課長：本日から本館1階にデジタルサイネージを市庁舎と同じように設置し、試行的に発信している。本館1階の待ち合いがかなり混雑していたこともあり、コロナ対策として密を避けることも目的として環境を整備している。Wi-Fiについては1階だけでなく、その他の市民の方が使える場所なども今後検討していきたいなと思っている。

大桑議員：栄の歴史・文化事業に関して、大河ドラマをきっかけに、栄区も鎌倉と関係性が深いので、盛り上げることができるのではないかと。

近堂地域振興課長：旭区と金沢区が大河ドラマとタイアップして様々な取組をしている。栄区としても世界遺産の関係で多少重なりながらやってきたところもあるので、先行した取組を参考にしながら、今取り組んでいる既存資源の調査などをどのように活かせるかも含めて検討していきたい。

大桑議員：セーフコミュニティの後継事業検討について、事業費としてもとても大きいので、記載の内容以上のことがあれば教えてほしい。

永松区政推進課長：セーフコミュニティは令和5年10月に認証満了のため、今までの成果を活かしながら後継事業で何ができるか検討していく。しかるべきタイミングで皆様にご意見を伺いながら進め

ていきたいと考えている。

大桑議員：新たな展開があったら教えてほしい。

本郷台駅周辺のまちづくり推進について、駅前や区役所、消防署、旧本郷地区センター、図書館など、駅前のまちづくりは大きく配置換えが進むいい機会になると思われる。市営住宅の建替えだけにとどめるのではなく、栄区として打ち出していきたい内容を示して行ってほしい。

永松区政推進課長：ただ建て替えることが区のためになるかというところは真剣に考えないといけないと思っている。今回、区提案の中でも区局連携という形で、財政局や都市整備局と連携して再編整備の土台をつくってきた。今後、環状南線の上部を通る上郷公田線が通り、本郷台駅へ向かう動線が大きく変わってくるため、これを契機と捉えて、市営住宅もほかの部署も含め、進めていきたい。

大桑議員：上郷公田線を含めて、どういうふうにバス路線が再編されるかわからないが、本郷台駅から10分、15分で戸塚まで行けるようなアクセスになるかもしれない。戸塚駅までの経路には明治学院大学があり、大船駅までの経路には鎌倉女子大学もあるので、本郷台駅前がうまく変わっていったらそういう学生も住むような場所になってくるかと思う。戸塚区では、朝は駅前がすごく混雑しているという話も聞いており、その点も解消できるかと思うので、戸塚区や市と調整しながら進めてほしい。

栄区民ロードレース大会は形を変えて実施されたと思うが、その状況について教えてほしい。また、さかえの野菜めしあがれ！について、今まで冊子をつくっていたかと思うが、今もそれを使っているのか教えてほしい。

近堂地域振興課長：ロードレース大会は、今年度はオンラインで開催した。登録いただいた方は245人で、1月8日から16日までの間の累計走行距離で競う形で実施し、1、2、3位の方々にメダルをお渡しした。期間中の参加者の順位については1月8日以降、リアルタイムに専用ホームページに公開することで、競争性も非常に楽しんでいただけたかと思う。

また併せて、栄区の魅力も発信しようと、実行委員の方を中心にご紹介いただいた区内の魅力スポットを楽しく走れる場所としてホームページでご案内した。参加者にアンケートを取って

る。その中には、オンラインで時間・場所にとらわれず参加できたのが非常によかったというご意見や、一方ではやはり実走のほうがいいというご意見もあるので、こうした結果も踏まえながら今後の実施手法の参考としていきたい。

角田福祉保健課長：さかえの野菜めしあがれ！について、令和2年度にシニア版の冊子を2000部作成したが、コロナの関係があり、保健活動推進員やヘルスマイトと一緒に地域で活用する予定が現状出来ていない。（コロナの状況次第だが）来年度はしっかりやっていきたいと考えている。

大桑議員：ロードレース大会について、もしかしたらまたオンラインだけになるかもしれないが、うまく両方ともできる形にしてもいいかと思うので、先ほどのアンケートも含めてうまく利用してほしい。

さかえの野菜めしあがれ！については、また反響があったら教えてほしい。

興石座長：本郷台駅周辺のまちづくり推進は、大規模な検討になっていくかと思う。財政局や都市整備局、市民局等と連携していかないといけないと思うが、区民への広報・周知等も含めて、ざっくりとしたスケジュールなどの見通しは立っているのか。

永松区政推進課長：遠い将来は全く未定だが、令和4年から5年の2か年で再編整備計画をまとめ、都市計画変更等の必要な手続きを経た上で、所管部署において設計・建築を進めていくので、都市計画変更の中では地域の方のご意見などを伺うことを考えている。まず4年、5年で再編整備計画を各局と検討していくということが現時点で言えるところかと思う。

興石座長：例えば区のマスタープラン等との関係はどうなるのか。

永松区政推進課長：区のマスタープランの中でもざっくりとだが、本郷台駅前の検討は触れられており、そこを踏まえた形になっている。

興石座長：では、4年、5年で具体的な計画がどこまで拡大していくのかという規模感も現状は不透明ということか。

永松区政推進課長：栄区独自に今まで区づくりの予算を頂いて再編整備の検討を進めてきた中では、図書館等も含めた、駅前だけではない形での範囲を検討の中に入れてきた。最終的に各局と議論していく中でどの範囲にするかは、未定となっている。

輿石座長：ぜひ力強く進めていただきたい。

栄の歴史・文化事業について、世界遺産の話も出ていたが、緑区に緑区遺産という事業があり、栄区もぜひ栄区遺産というような分かりやすいくくりで事業として始めるのはどうか。

富士田区長：当然そういう考え方はあるが、どのようにしていくのかはまだ具体的に決まっていない。今回の栄区の魅力を発信するという意味では、そういう遺産や緑などいろいろな資源があるので、その一環としても考えていきたい。どういう形を取るかはまたこれから検討させてほしい。

輿石座長：区民の感覚に合った事業に育てていく甲斐がとてもあると思っているので、ぜひお願いしたい。

タッチーくんグッズについて、ピンバッジをはじめとても好評だ。グッズが足りていないと思うが、もう少し使い勝手のいいグッズをつくる考えはあるか。

永松区政推進課長：今後、検討させていただく。

輿石座長：よろしくお願いしたい。

セーフコミュニティの後継事業の検討について、事業開始当初より位置づけが変わってきているということもあるが、これまでみんなで取り組んできたものなので、レガシーという意味での残し方と、他都市との連携という点でも、区だけで考えるのではない視点が必要かと思うがどうか。

永松区政推進課長：WHOの認証が外れたのは事実としてある。ただ、満了に伴い今回は再々認証しないということではあるが、地域の活動の中に、例えば厚木の活動者をお呼びしたりする事例は今までもあり、そういう安全・安心に対する意識は当然皆さまの中に引き継がれていくもので、後継事業の中でそういうことを踏まえ考えていく必要があると認識している。また、関連の他都市との連携も、先ほどの例のように引き継がれていく可能性があると思っている。

輿石座長：認証ということであると、SDGsの国際認証がある。SDGsに関しては横浜市もヨコハマSDGsデザインセンターを設置して認証制度をもっているが、そことの連携について何か考えはあるか。

富士田区長：皆様方にもご説明したとおり、今年1年、来年も含めて今ま

でやってきたものは継続して続けていくが、セーフコミュニティの再認証は取らない。ただ、今まで10年間やってきたもの、実績等もあるので、しっかりデータや、都市の連携など、そういう安全・安心のレガシーを残しつつ、新たなものをつくっていかうと考えている。SDGsはまさにそれのもっと大きな概念なのかもしれないので、当然その辺の考え方は入れた中で、何をやっていくのか考えていきたい。ただ、私が一番今思っているのは、地域に還元されなければいけないという点である。セーフコミュニティは、やっていることは見えているかもしれないが、実感としてこの地域が良くなったとかこれが変わったとかいうことを感じなかったのではないかとというのが自分の反省も含めてあるので、できればそういうことも含めて後継事業では考えていきたい。今まさに過渡期であり、またご意見をお聞きしたい。

興石座長：太陽光発電システム撤去について、また設置する計画もあるか、撤去したら終わりか。

永松区政推進課長：本郷台駅前の上屋に関しては撤去で、今後も設置する予定はない。

興石座長：費用対効果について経費の面でもまとめて報告があったか。

永松区政推進課長：今まで経費に関しての報告はしていない。売電するのみだったため、基本的には上屋の維持管理にかかる経費とほぼ相殺だった。今年度から電力の固定価格買取制度が終了して、大幅に売電の金額が低下したことも一因としてある。

興石座長：栄区民ロードレース大会について、来年からリアルとオンラインとのハイブリッド開催というのはどうか。

近堂地域振興課長：令和4年度の予算案上では実走で行う予定で積算をしている。今回オンラインという初めての取組を行ったので、その効果なども踏まえながら、最適なやり方を並行して検討できればと思う。

興石座長：ハイブリッドにすると、一つのパラスポーツ的な視点でマイペースで走るとか、車椅子の方もご自分のエリアを走るとか、そういう視点でも開催できるのではないかと思った。難しさも伴うと思うが、できそうか。

近堂地域振興課長：今頂いたご意見も踏まえ検討していきたい。

興石座長：生活困窮者支援の視点で、この間フードパントリーで食料提供

	<p>に協力させていただいたが、コロナ禍での生活困窮者の実態について把握の仕方に何か変化はあったか。</p> <p>村山生活支援課長：生活困窮者の相談の総数が、令和元年度は 266 人だったが、コロナの影響が生じた令和 2 年度、1017 人と急激に増えた。住居確保給付金という住居の補助と、就労の相談なども増えた実績がある。</p> <p>興石座長：桁が 1 個増えるほどの緊急事態だと思うが、国の給付金の再分配で対応し切れているのか。</p> <p>村山生活支援課長：いろいろな制度を利用されている方が多く、実感としては社会福祉協議会の貸付けなども利用している方が多いかと思われる。どうしてもそれに対応できなければ、やはり最後のセーフティーネットの生活保護という形となると思われる。</p> <p>興石座長：一たび生活保護を受給すると、今度は制約があって次の自立に壁ができてしまうとよく聞かれるが、区が独自でできることをぜひ模索していただきたい。栄区の場合、持ち家率がとても高く、住居として暮らしている人がたくさんいる街のため、栄区独自でできることを、一緒につくり上げていけたら新たな区の魅力にもつながるし、セーフティーネットを強化して行ってほしい。</p> <p>本郷台駅前に地域ケアプラザができ関係者の皆さんのお力添えに感謝する。一方で、残念ながら W i - F i 環境がところどころなかった。現場の方からは予算の関係というお話も出たが、どうなのか。</p> <p>近堂地域振興課長：指定管理者にそういったご意見の具体的な状況を確認し、W i - F i 環境改善につなげられるよう、努めていけたらと思う。</p> <p>興石座長：区の方針として I C T の高齢者も含めた利活用をうたっている中で、高齢者施設がそんな状態では連携が足りていなかったのかなと思うので、ぜひよろしくお願ひしたい。</p> <p>では、発言がないようでしたら、以上にて終了とさせていただきます。</p> <p>会議報告書の作成については座長一任。了承</p>
備 考	